

# 笑顔が一番

令和4年 7月  
今江こども園  
二木 恵子

毎日、大変暑い日が続いています。コロナが少し落ち着いたかなと思ったら、今度は熱中症の心配をしなければいけません。お子さんだけでなく、保護者の皆様も体調の変化には十分注意されてお過ごしください。子ども達はプール開きも終え、元気に過ごしています。改めて、子どもの声や笑顔に元気をいただき、その存在そのものに感謝しています。

さて、これまでに引き続き佐々木正美先生の本「かわいがり子育て」から、子育てのヒントをお送りします。これまでお伝えしてきたことと内容が重なることもあります。日ごろの忙しさで忘れることが多いと思います。「ああ、そうだった」と確認しながら、子育てを楽しんで下さい。



## 喜びというプレゼント交換

人間にもっとも大切なコミュニケーションは、「喜びを他者に与え、そして自分も与えられる」ということです。

「あなたが好き」とか「かわいいな」という気持ちをもつと、それを言葉に出さなくても相手へその心は通じ、同じような温かい心が返ってきます。(大人同士の人間関係も同じですね)これは、言葉を変えると、「喜び」という心のプレゼント交換です。子育ては、まさにこの「喜び」のプレゼント交換です。

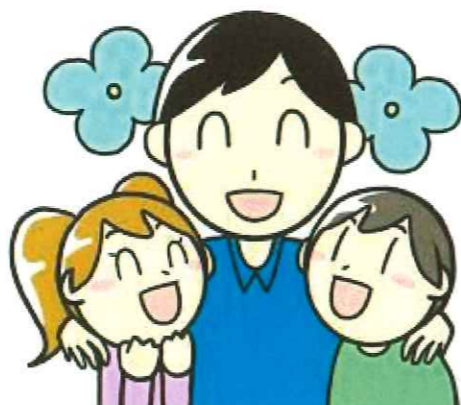
子育てというと、親から子どもへの愛情と思いがちですが、じつは、子育ては、親と子の心の交流なのです。

## がんばり過ぎないほうが良いこともあります

子どもをちゃんと育てていけるかな、という不安な気持ちは、親ならきっとだれもが感じていることです。失敗したらどうしよう…と不安になるのも仕方ないかもしれません。そのために、たくさん本を読み、これが大切、こうしたほうが良いと一生懸命になる。

でも、時に一生懸命なりすぎて、歯止めがきかなくなってしまう人もいます。十分がんばっているのに、まだ自分に対して、「もっともっとがんばれ」と言い続けているお母さんもたくさんいます。がんばりすぎて、親が緊張していると、喜びの心というプレゼントを子どもに渡しそびれてしまいます。子どもが親に渡そうとしているプレゼントも、もらい損ねてしまいます。

立派な子育てなんてないのです。ゆったりとした気持ちで子どもと向き合っていると、「すごいなあ」と感動したり、「面白いなあ」と笑えることがずっと増えるはず。がんばり過ぎないほうが良いこともあるのです。



## 「ごめんね」より「ありがとう」と言おう

こんな事がありました。

ある日、仕事の都合でお迎えの時間が遅くなり、息をきらして園に飛び込んだら、自分の子どもだけがポツンとひとり残っています。その様子を見たら、子どもに申し訳なくて、「ごめんね。遅くなってごめんね。」と何回も泣きながら謝りました。

お母さんが子どもに「ごめんね」と言うのは、自分を責める気持ち=マイナスな心があるからです。お迎えに遅れたことだけでなく、園にあずけ、いっしょにいられないことをうしろめたく思っているのかもしれない。

でも、子どもはそんな親の心をどう受け止めたらいいでしょうか。そうではなく、子どもがほしたのは、マイナスの気持ちではなく、喜び=プラスの心なのです。

「ありがとう」という言葉には、プラスの心がたっぷりと込められています。子どもにとっては、最もうれしいほめ言葉です。

だから、こんな時は、「ごめんね」ではなく、「待っていてくれて、ありがとう」と待っていてくれたことをほめてあげてほしいのです。

「ごめんなさい」の子育ては親が自分を責める子育てです。「ありがとう」の子育ては、自分を責めない子育てです。すると、子どもと親のあいだには、たくさんの喜びの心が交換されるようになります。



## こんな時 あなたならどうする？

### 子どもの、イヤイヤにお手上げ

自分の思い通りにならないと、足をダンダン！泣いて泣いて大騒ぎ。なんて言えば、機嫌を直してくれるのかな。

#### ① やっぱり怒っちゃう！

頭ごなしに叱りつけても、効果がないどころか、さらに泣き叫んで収拾がつかなくなりそうですね。「しょせん、子どもはわがままだ」と考えたらどうでしょう。諦めると怒りがやわらぎ、叱りつける厳しい言葉は口に出さなくて済みます。

#### ② きりがいいからほっときます！

急いでいるときに、だだをこねられたらイライラしますね。でも急いでいるのは親の都合かもしれません。「もう知らないよ」というひと言は、子どもを突き放す、おどしの言葉です。子どもは見捨てられたと感じます。

#### ③ 落ち着くまで待ってます。

だだをこねてみせるのは、子どもがだれの前で一番安心できるのかの表れでもあります。子どもは、安心できる人の前でなければ地をだしません。信頼されているのだと自信をもって下さい。周囲目を気にして無理に収めようとするより、見守りながら「待つこと」は、かわいがり育児です。特に反抗期は、「やってるな」とゆとりの気持ちで子どもを見守って下さい。

